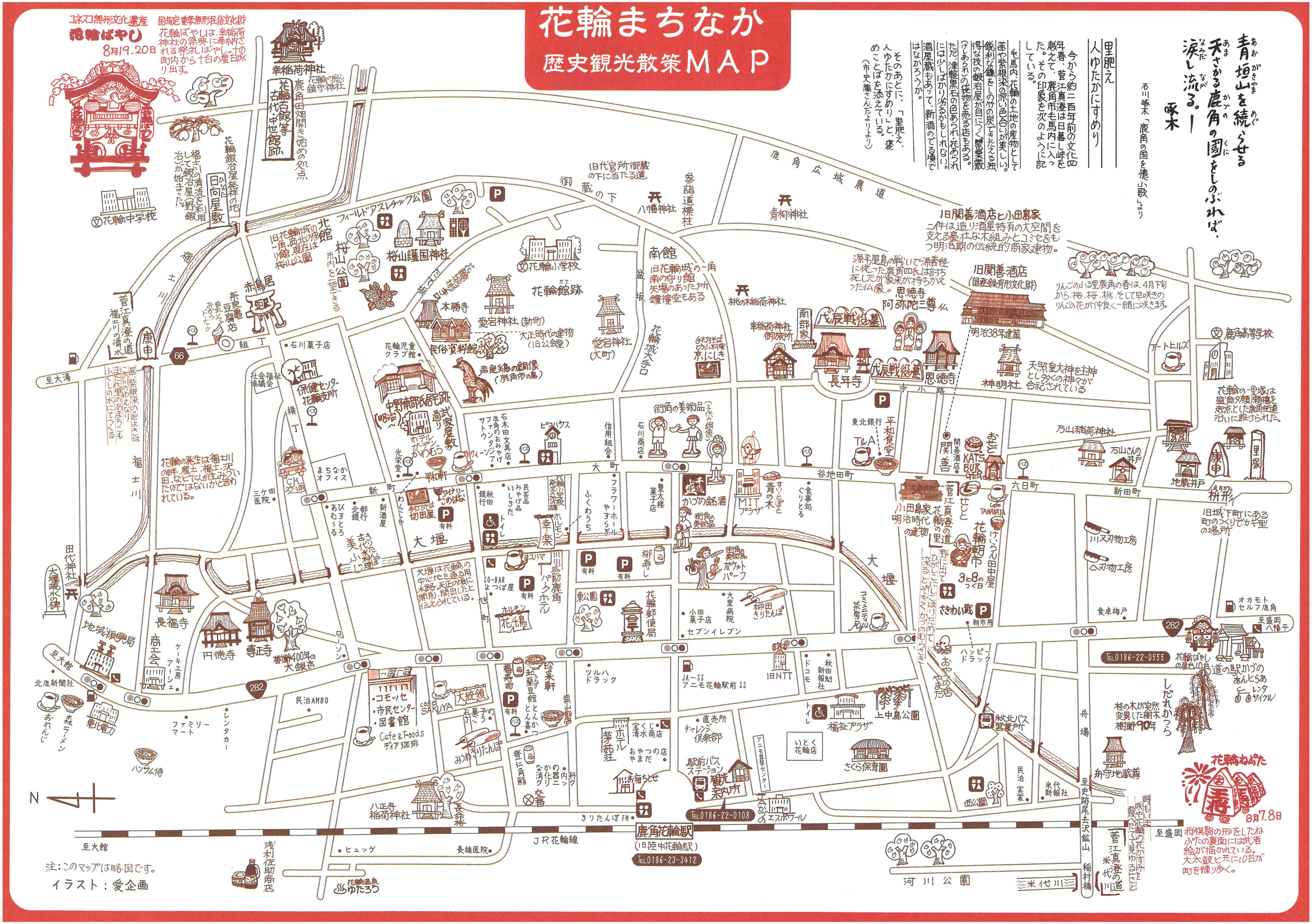
花輪まちなか
歴史観光散策MAP



青垣山を続らせる
天さかる鹿角の國をしのぶれば、
涙し流る。―
啄木

石川啄木「鹿角の国を憶ふ歌」より

里肥え
人ゆたかにすめり

今から約二百年前の文化四年春、菅江真澄は日暮し峠を越えて、鹿角市毛馬内に入った。その印象を次のように記している。

毛馬内、花輪の土地の産物として苗や紫根染の深い色合いが美しい。鋭利な鎌をしの竹の炭できたえる独得な技の鍛冶屋が目につく。鬱蒼霜(ナレあられ)の袋物を売る店もある。ただ、津軽黒石の色あられ、花あられには少しばかり劣るかもしれない。酒屋蔵もあって、新酒のでる頃ではなかろうか。

そのあとに、「里肥え、人ゆたかにすめり」と、褒めことばを添えている。

(市史編さんだよりより)

注：このマップは略図です。

イラスト：愛企画